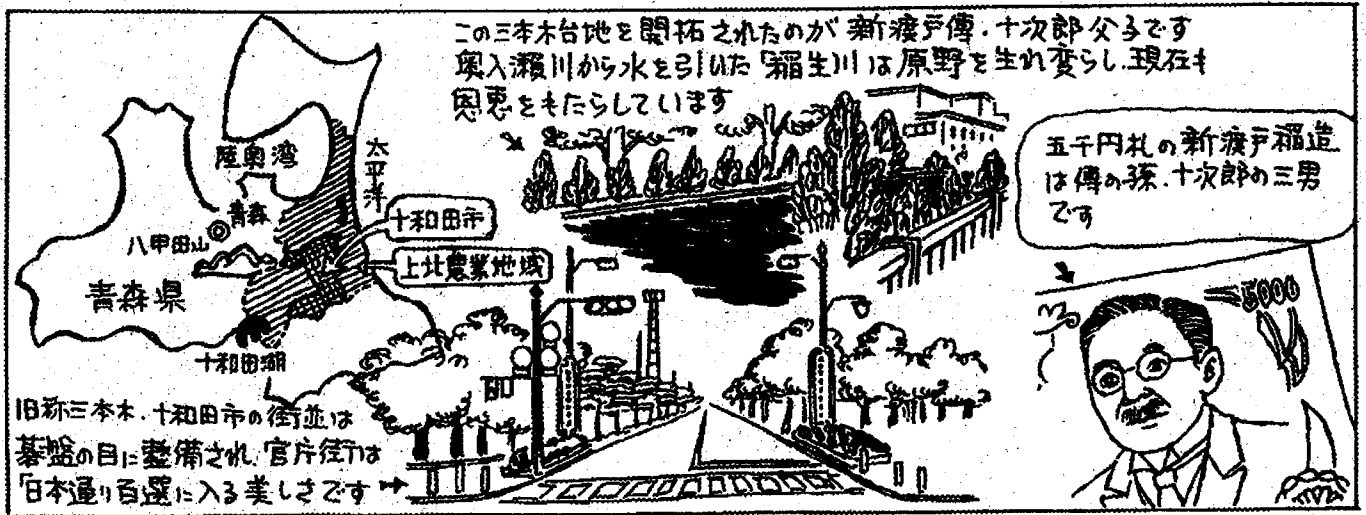


まんが 土地改良偉人伝

出典 一般財団法人日本土壌協会

(圃場と土壌 1992 年 9 月号・土地改良新聞 2019 年 9 月号)



青森県土地改良偉人伝

新渡戸傳・十次郎親子と十和田市

(寛政5年(1793)～現在)



新渡戸傳
人工川稲生川の開削工事
に着手、十和田市発展の
基礎をのこす

新渡戸十次郎
傳の長男、十和田
市を包囲した近代
都市計画先駆者

(参考資料)

目にする十和田市の大地、十和田市教育研修センター
新渡戸傳翁と三本木原十和田開拓のしおり・大妻顕彰会
新渡戸家田舎屋
新渡戸傳・十次郎親子「三本木原開拓の歴史」
青森県土地改良史
奥入瀬川左岸地帯、相模川二期地帯がけの用水事業調査書
平成4年度 上北土地改良事業の現状
広報 稲生川
奥入瀬川・山崎地帯の環境整備事業 竣工記念誌

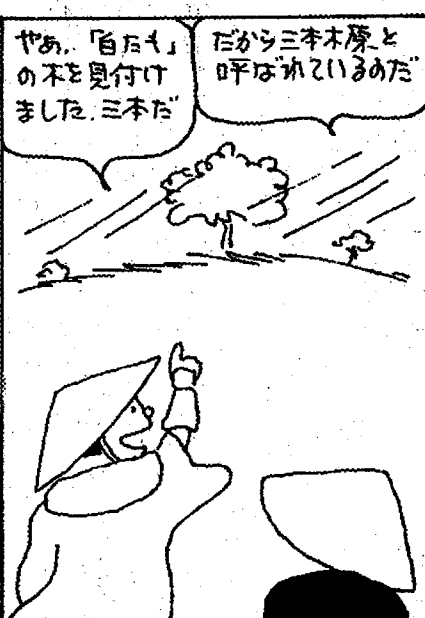
(指導・協力)

十和田市観光委員会 社会教育課
文化係 鈴木十次郎係長
稲生川土地改良区
水野好路理事長 工藤正壽議長
上北土地改良事務所 米塚功治係長 菅原
青森県電気建設課
東北建設局建設部 整備課
十和田市立 新渡戸記念会館

まんが 水谷たけ子

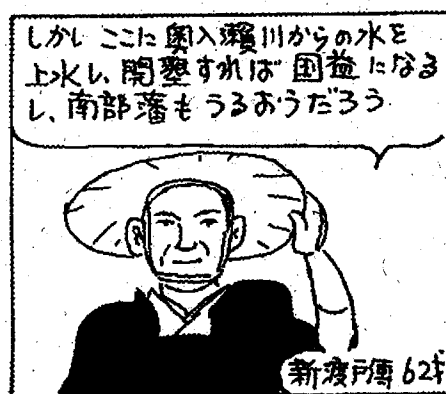


嘉永5年(1853)夏



やあ、「百たぐ」の木を見付けました。三本だ

だから三本木原と呼んでいるのだ



しかし、ここに奥入瀬川からの水を上水し、開墾すれば国益になるし、南部落もうるおうだろう

新渡戸傳 62歳



それで、普請や技術者の皆さんに調査と測量を頼い来て貰ったのです



よく来たすつた。こんな所でも、位地は昔からの集落があります。馬の野飼をしているのです

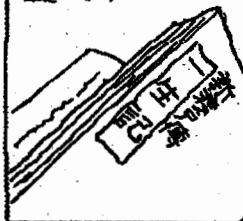
沢田村の小笠原 與治さん、紅筆をする間世話をかけますぞ



書きものですか

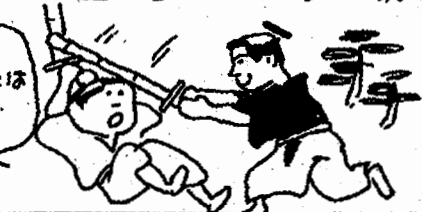
私の記3つをつけて
いるのです

傳のこゝに至るまでを
述べますと



寛政5年(1793)花巻城兵法師範の家に
生れました 幼名権太. 字は茂郷. 号は太素

文武ともに
権太さんには
かばわなげ



文政3年(1820)25歳の時. 父の継民が知行半地を
没収の上. 左遷されました

藩政改革の若侍を煽動
したとの誤解を受けたのじゃ
お前たちにも苦勞をかけるな

お義母さま氣を
しっかり持って下さい



その年長男十次郎が出生しています



傳 32才

えー十和田湖に
船を浮かべるなんて
湖の神の罰を受け
ますぞ

祭文を唱え?
今までの因習を
変えます



ひやー十和田湖
初めての出来事だ

子ノ口で堰上げ
奥入瀬川を増水させ
材木の船積みします

十和田湖の
新瀬戸さん
繁盛ですな

傳は父の生計を助けようと. 武士から小間物売りに
そして材木商を営みます



江戸へひば材
を運ぼう

江戸に大火があったので檜
が売れた次は米と清酒
の見込み商売だ



46才
大金を年に入れた. これ
以上欲を出しても仕
がないから花巻に戻
って再仕官しよう



勘定奉行となり各地の
開墾を成功させて来た
色々金が殖もさせて貰った



江戸に居る
十次郎がさぞ

父上. 私は元気で江戸
勘定奉行を勤めています



安泰じゃ

本日集っていた百いたのは
三本木原開拓工事
のことです



我々は同意者です

南部藩は財政に
行き詰ってある
金は出さないが
開拓に成功した
者は十分に登用
すると



十才士制度

はい私財を
投げうって



寛政2年(1790)

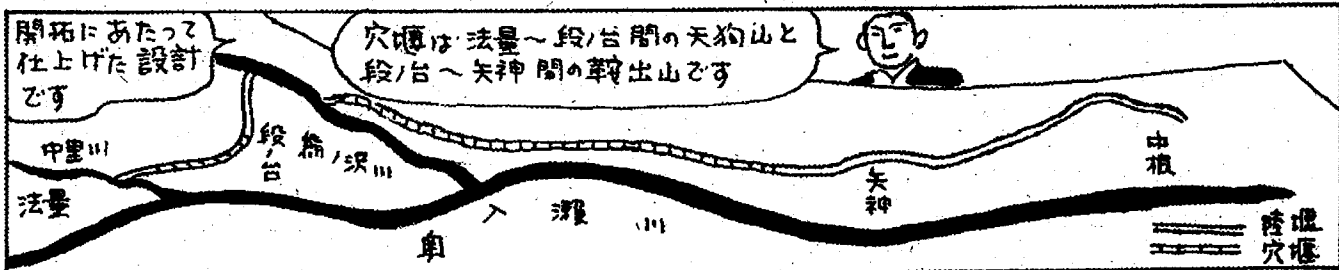
開拓許可のお墨付を
戴いたまが資金集めた

また霖雨で今年はお作
たな. 大豆. そば. 稗以外
に米が4収穫出来るように
開田を急ごう

開墾を志し
集って来ました

資金を出せば台地に
水が来た時は土地を
下さるそうですね

これが開拓議定
書です. 賛成なさ
つた上は署名と
捺印を下さい



寛政3年(1856)

山の神に工事の無事を
祈願しよう

それ、上流から第一撃

かれわれは
工事の熟練者だ

ようし、穴堰普請者は頭令
の指示に従って下さい

下流からも第一歩だ

穴堰の掘り方は各組に分けて横穴を掘り、各組の受持分担により
上流と下流を掘り進めました

上から見た断面

口食い違いが
出来ぬは
よいが....



ここは山の中腹なんだ

地の底は暗闇で
予ごり工事だ

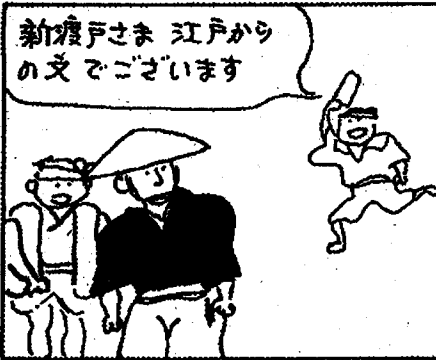
紅葉に横めても
気を付ける



東ノ館地帯は地面が高く
深掘をしなければ水が流れない



また崩壊だ 大難所だ



新江戸さま 江戸から
の文でございます



ええ、めい江
江戸で勘定奉行を
勤めよとの命令だ

何とことだ
工事途中に
……



父上、私は江戸
から戻って参り
ました

お、十次郎



私が三本木新田御用懸りと
なつて後を継ぎましよう

頼んだぞ



お祖父さま
私も共に
従軍します

長男の七郎
邦え助も15才
になりました

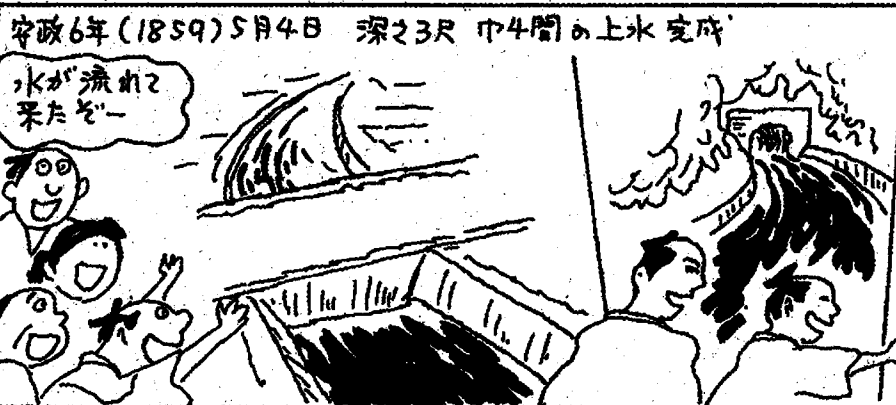


資金が切れてきた



また400両
借りたい

この前は200両
お貸しましたよ

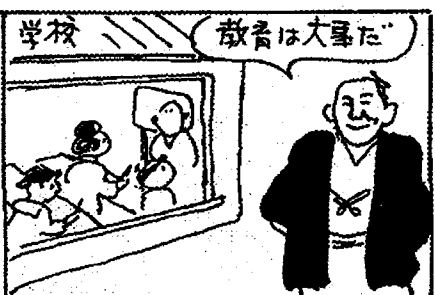
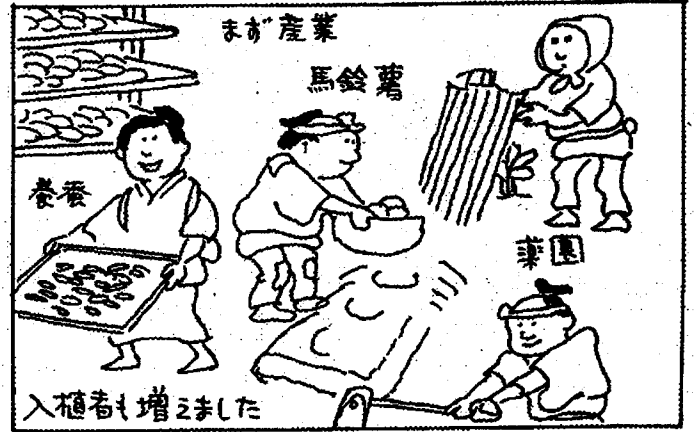
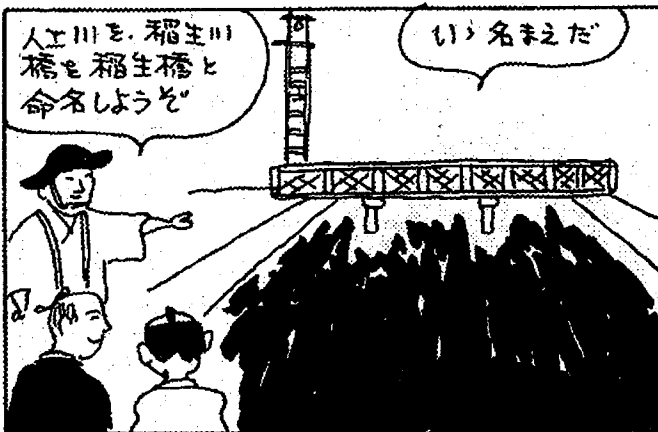


安政6年(1859)5月4日 深23尺 巾4間の上水完成

水が流れて
来たぞー

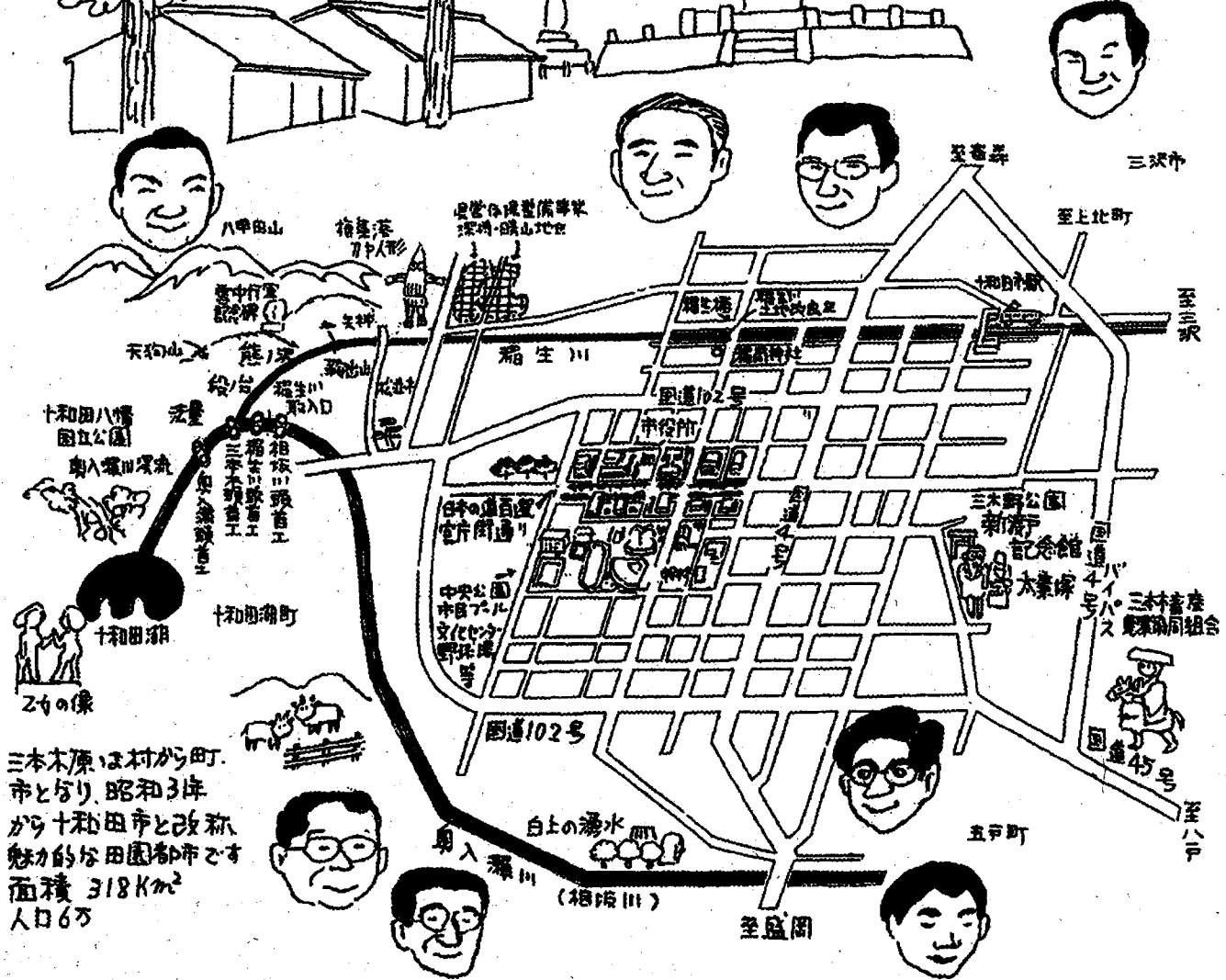


わい、勤めを許されて
帰つ来た十次郎よく
やってくれた





明治4年9月2日傳翁逝去 79才
新渡戸記念館には貴重な
資料が展示されています



三本木原は村が町
市となり、昭和3年
から十和田市と改称
魅力的な田園都市です
面積 318km²
人口6万

